

平成27年10月30日



かなざわ

11月号 No.7

横浜市金沢区町屋町26-26 電話 781-2401

褒めるとは

教務主任 山口 祥子

先日のオープンスクールは、大勢の保護者・地域の皆様に参観いただきました。その際の学校アンケートでは、子どもたちの活動や学習の様子から頑張りを認め、褒めてくださる回答を数多くいただきました。子どもたちは褒められると、今後の学習や活動のモチベーションがあがり、「ますます頑張ろう」とやる気が出ます。さらに我々教職員に向けた温かい回答もいただきました。ご指摘いただいた課題は真摯に受け止め改善に努力すると共に、認めて褒めていただいたことを素直に心に留め、金沢小全員の意欲向上に繋げていきたいと思っています。真摯なご意見をありがとうございました。

やって見せ 言ってきかせて させてみて 褒めてやらねば 人は動かじ

これは昭和初期の山本五十六の言葉です。子どもたちの教育に携わる一人として、子を育てる母として、そして社会に生きる一人の人間として、人を育て、共に育ち共に生きる一つのヒントを授けてくれる言葉だと思います。これを読むと、はっとして、我が身を振り返ります。やらせてみて、望んだ結果にならないことは多いものです。では、結果が望み通りにならなかったとき・・・できないことについていらしたり、叱ってしまったり、他と比べてがっかりしたり。自分を振り返ると、そうしてしまっていることが私には多いのです。子どもたちは、こちらのがっかりした様子を見て、ますますがっかりする・・・。そんなシーンが目には浮かびます。これではいけません。

結果が伴わなかったときはやった本人がいちばんがっかりしています。そんな時こそ尚更、やる気や、本人の頑張りといった、させてみたことに伴う小さなよさを見つけ認め、褒めることが人を育てる一つなのでしょう。結果より経過に目を向け成長の本質を見取る。この言葉は、まさにこのことを意図しているのではないかと私は考えます。手本であるべき大人は、その小さなよさをしっかり認める目を持ち、それを素直に伝え安心感を与える度量を備えていかねばならない。「必ず褒めよ」ということではなく「小さなよさを認められるような目と度量を備えよ」といっているのだと私は捉えます。この年になってもまだまだ精進が必要です。子どもの育ちを支えながら、自分が一緒により一層成長していかななくてはならないのだと思います。今後も地域・保護者の皆様のご指導ご鞭撻をお願いします。

言葉は続きます。素敵な言葉なので紹介させていただきます。

話合い 耳を傾け 承認し 任せてやらねば 人は育たず

やっている 姿を感謝で 見守って 信頼せねば 人は実らず